

●序章

1. 計画の目的

山形市は、蔵王、山寺などの四季折々の豊かな自然環境を活かした観光地と、城下町と紅花商人を礎とした歴史・文化の色濃く残る市街地観光を楽しむことができるまちであり、全国的に少子高齢化の進展や都市間競争が厳しさを増していく中で山形市が人口減少に歯止めをかけ、地域経済の活性化を促していくためには、観光地としての魅力を高めて交流人口の拡大を図ることが重要な方策であると考えられます。

しかし、平成23年3月の東日本大震災に端を発した東京電力福島第一原子力発電所の事故による風評被害や、平成27年の蔵王山への火口周辺警報発表などの影響に加え、経済環境と余暇活動の多様化から、観光客入込数の減少が見られ、各種事業の実施により回復傾向にあるものの、前計画で掲げてきた観光客入込数の目標には達していない状況です。

国内旅行では、団体旅行から個人旅行への移行がさらに進んだうえ、インターネットによる情報収集も多様化しており、動画配信サイトやSNS※等を活用した、新たな手段による情報発信が可能となっていることから、山形市が旅行者に選ばれる観光地となるためには、観光地に加え、歴史、文化、スポーツ、健康・医療等、山形市が持つ独自の資源を観光と連携させて魅力ある観光商品として磨き上げ、多様化された情報発信手段を効果的に活用した発信が求められます。

また、国内の旅行者数が横ばいで推移する中、交流人口の拡大に向けて大きく期待されるのが訪日外国人（インバウンド）で、インバウンドの入込数は平成23年以降右肩上がりの傾向が続いており、今後もその伸びが期待されています。

国は平成29年4月に観光立国推進基本計画を改定（目標年：平成32年）し、『観光は我が国の成長戦略の柱、地方創生への切り札であるという認識の下、拡大する世界の観光需用を取り込み、世界が訪れたいくなる「観光先進国・日本」への飛躍を図る』との方向性を定め、観光立国の実現に関する目標や政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策を示しました。

特に、平成32年に開催される東京オリンピック・パラリンピックにおいては更に多くの外国人の来日が見込まれることも合わせ、平成32年における訪日外国人観光客を4,000万人とする目標が立てられています。

これらを踏まえ、山形市が日本人、外国人を問わず「旅行先に選ばれる」観光地となるとともに、訪れた旅行者が「また来たいくなる」高い満足度を得られる観光地となることを目指します。

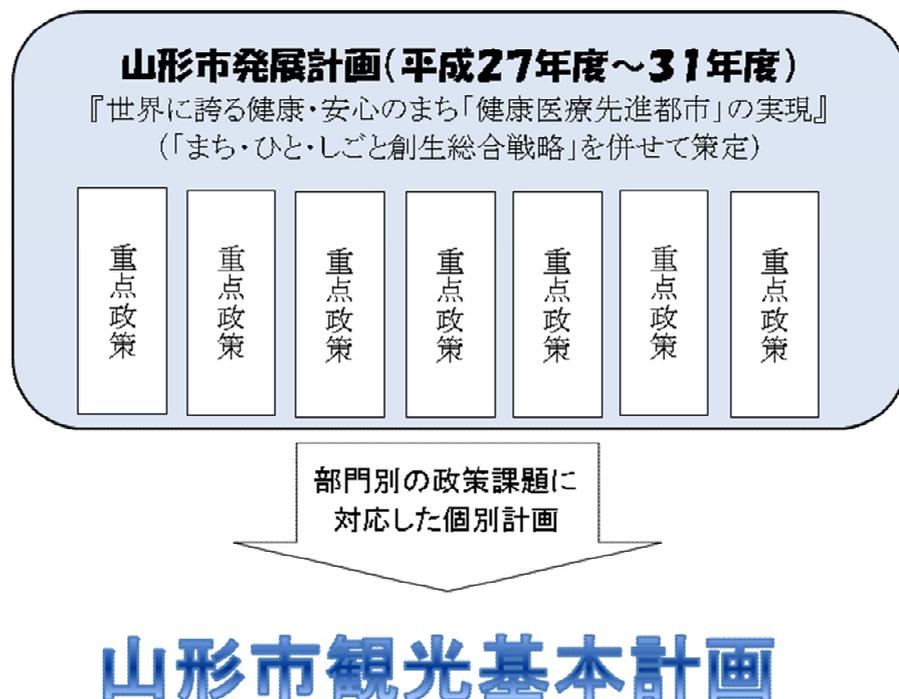
※SNS(ソーシャルネットワーキングサービス) …インターネットのネットワークを通じて、人と人をつなぎコミュニケーションが図れるように設計された会員制サービス。

2. 計画の体系

山形市では、平成18年に策定した『みんなで創る「山形らしさ」が輝くまち』を将来都市像とする基本構想に基づきまちづくりを進めており、平成27年度から平成31年度を計画期間とする「山形市発展計画」を策定し、5年間に実施する施策を示しました。

「山形市発展計画」においては、定住人口・交流人口の拡大を図る観点から、産業の振興による雇用の創出と新しい人の流れによるまちの賑わいづくりを重点政策としております。

本計画は、観光振興の観点から山形市発展計画における重点政策の実現を図るため、目標の設定と、施策の柱となる基本方針を定めるものです。



3. 計画期間

平成39年度を目標年次とし、平成30年度から10年間の計画とします。

ただし、社会情勢の大幅な変化や山形市発展計画の見直しに伴う政策の変更等により必要が生じた場合は、計画期間内においても適宜見直しを行うものとします。